

## カンボジア・モン・ラオス系アメリカ人と労働市場格差

日本大学 武井勲

### 1. 目的

本報告では、社会経済的格差に直面していると広く認識されているカンボジア・モン・ラオス系アメリカ人の特徴を、近年の合衆国国勢調査データを用いて概観する。標本に含まれる者の多くは1965年以降合衆国に移住してきた政治難民の子弟である。モン族とは中国、ベトナム、ラオスなどにまたがって居住している民族集団である。

### 2. 方法

2010-2012年の American Community Survey (ACS) データを用い、25-64歳で合衆国生まれのネイティブ世代および第1.5世代（外国生まれの移民であるが13歳以前に渡米したため英語が流暢である）を標本に含めた。基礎的な人口動態・社会経済的変数に関する記述統計を示すとともに、「当人の最高学歴が大卒もしくはそれ以上か否か」を従属変数としたロジスティック回帰モデルおよびログ所得を従属変数としたOLS回帰分析モデルを検証した。分析には比較参照集団としてネイティブ世代の非ヒスパニック系白人を含めた。

### 3. 結果

記述統計から、各集団ともに白人よりも平均年齢が低いにもかかわらず子供数が多く、絶対・相対貧困率も概して高く、モン族の場合婚姻率がとりわけ高いことがわかった。またこれらの集団の平均教育水準は白人のそれを大きく下回り、とりわけ男性の中でもラオス系の格差が顕著であった。所得水準に関しては、人口動態的変数および教育水準を統計学的に考慮すると、カンボジア・モン・ラオス系アメリカ人女性と白人女性との間には統計学的に有意義な水準での格差は見られなかった。男性の場合、人口動態的変数および教育水準を考慮すると白人男性との間に格差が認められないという点でカンボジア系とラオス系アメリカ人男性にも同様の分析結果が当てはまる。唯一の例外はモン系アメリカ人男性であり、人口動態的変数および教育水準を考慮しても白人男性との間に約10パーセントの所得格差が残ることがわかった。

### 4. 結論

先行研究の多くは東南アジア系アメリカ人の社会経済的格差を強調しているが、それは大卒者の割合という変数から見た教育水準が白人を大きく下回るという点で本研究と合致していると言える。モン系アメリカ人男性に関する分析結果を除いて、東南アジア系アメリカ人の所得格差問題は労働市場における人種差別というよりはむしろ彼ら自身の社会階層的要因（特に彼らの低い学歴水準）に因るところが大きいと推測できる。

### 文献

Takei, Isao, Arthur Sakamoto, and ChangHwan Kim. 2013. "The Socioeconomic Attainments of Non-Immigrant Cambodian, Filipino, Hmong, Laotian, Thai, and Vietnamese Americans." *Race and Social Problems* 5:198-212.